

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 芸術 科目 美術Ⅰ

教 科： 芸術 科 目： 美術Ⅰ 単位数： 2 単位
対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 8 組
教科担当者： （ 1 組： 藤沢 ） （ 2 組： 藤沢 ） （ 3 組： 藤沢 ） （ 4 組： 藤沢 ） （ 7 組： 藤沢 ） （ 8 組： 藤沢 ）
使用教科書： （ 光村図書「美術Ⅰ」 ）
教科 芸術 の目標：

- 【知識及び技能】対象や事象を捉える造形的な視点にういて理解を深め、創造的な美術表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて表現方法を工夫し表せるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】造形的な美しさ、表現の意図と創造的な工夫について考えられるようにするとともに、発想をもって構想を練
- 【学びに向かう力、人間性等】積極的に美術や美術文化と関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取組む力を養う。

科目 美術Ⅰ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
対象や事象を捉える造形的な視点にういて理解を深め、創造的な美術表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて表現方法を工夫し表せるようにする。	造形的な美しさ、表現の意図と創造的な工夫について考えられるようにするとともに、発想をもって構想を練られるようにする。	積極的に美術や美術文化と関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取組む力を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			絵 ・ 彫	デ	映						
1 学 期	A 絵具の種類とその使用方法 【知識及び技能】 顔料と展色剤からできている絵具の構成、種類等について知り、その特性や長所短所を会得する。 【思考力、判断力、表現力等】 どんな場面で、どのような絵具が最適なのかを知り、制作をのぞめるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に美術作品の彩色について、関心がもてるようにする。	・絵具の構成、顔料と展色剤についての説明 ・これから使用することになる、アクリル絵具の特性、すなわち、長所短所についての説明	○			○	【知識・技能】 絵具の構成、顔料と展色剤について、理解ができたか。 発展的に、授業で使用するアクリル絵具の特色について、理解の応用ができたか。 【思考・判断・表現】 各時代によって、絵具の展色剤が変化してきたことから、その時代の絵画等の美術作品を再認識できたか。 【主体的な取組】 絵具への関心を深め、画材を今後使用していくことについて、応用を図ろうとしているか。	○	○	○	2
	B 幾何形体のデッサン（デッサン基礎） 【知識及び技能】 デッサンについて理解するとともに、その関連する技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 デッサンの表現の中で、自らの課題を発見し、合理的かつ創造的な解決を行う。 【学びに向かう力、人間性等】 自らデッサンを学び、主体的及び創意工夫をもって、取り組む。	・デッサンの基礎部分、鉛筆の持ち方、鉛筆（芯の濃さ等）の使い方、明暗の作り方を説明及び指導する。 ・陰影、反射光の描き方、ハッチング、ぼかし等の簡単な技法を説明及び指導する。 ・対象物が正しい比例分配によって画面に描かれるように指導する。	○			○	【知識・技能】 鉛筆の扱い方、画面の明暗段階の作り方ができているか。 鉛筆を用いて、形やものの陰影、反射光等が十分に表現できているか。 【思考・判断・表現】 自分の意図を表現するため、その描き方を創意工夫できているか。 デッサンによって、造形的な美しさを表現できているか。 【主体的な取組】 説明をよく聞き、作品を提出できているか。 美術の創造活動に対し、自ら学び、主体的な学習活動となっているか。	○	○	○	4
	C 文化祭ポスター制作 【知識及び技能】 ポスターとは何か、ポスターの役割等について、知識を習得する。 画面上の配置は、適当な美しさを持ったものになるようにする。 アクリル絵具の特性を理解して、作成を行うようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 発想を得て、オリジナリティのある構図となるように指導する。 着色については、色彩バランスがあるように工夫するとともに、独創性のある作品に仕上げる。 文化祭のポスターとしてふさわしい表現となるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的かつ積極的にポスター制作を行うようにする。 完成度の高い作品になるように細部の丁寧な仕上がりを心掛ける。	・今回のテーマに沿ったポスターの制作となるように指導する。 ・ポスター制作に当たっては、独創性を持った者となるように指導を加える。 ・マッピング等の技法を使って、ポスターの着想を広げる。 ・得られた発想を適切な構図へと転換し、下絵（スケッチ）を画用紙に作成する。 ・水彩ボード（B3判）に、鉛筆等で構図を描き、配置を完成させる。 ・水彩ボードに着色していく。 ・最後に、画面の細部の仕上がりに拘った仕上がりを試みるように指導する。 ・出来上がった作品について、個人単位で制限時間を設けて、発表してもらう。	○			○	【知識・技能】 文化祭ポスターとしての役割を理解した作品となっているか。 メッセージを伝えるポスターデザインとして、制作手順を理解し実行できているか。 ポスターとして、構図や色彩は、適当なものとなっているか。 【思考・判断・表現】 発想がオリジナリティがあるものとなっているか。 表現方法についても、自分独自のものが伺われる作品となっているか。 画面の色彩や配置が、適当なものとなっているか。 【主体的な取組】 説明をよく聞き、それに沿った作品を提出できているか。 その表現について、様々な工夫を取り入れたものとなっているか。 友人との作品鑑賞において、積極的に参加し、自己作品の振り返りがされているか。	○	○	○	20
	D 野菜や果物の模刻（石塑粘土を使用して） 【知識及び技能】 石塑（石粉）粘土の性質、特性に	・対象となる野菜や果物について、細かく観察し、鉛筆を使って数枚のスケッチを行う。 ・石塑粘土について、その特性、					【知識・技能】 石塑粘土の性質やその使用方法、作成上の注意事項を理解しているか。 石塑粘土についての特性を理解した上で、粘				

2 学 期	<p>ついて、理解し、それに沿って制作をする。</p> <p>塑造の制作方法について、手順を追って、制作することの大切さを理解する。</p> <p>細部における、ニードル等の使用方法についても、理解を深める。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>モデルの野菜や果物のよく観察して、そのものを表現するように心掛ける。</p> <p>モデルとなる野菜や果物の質感や量感を理解して、制作を行う。</p> <p>モデルの野菜や果物の色、形状に加えて、生物であることを意識して制作をする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>塑造について、自ら学び、積極的に制作に取り組む。</p> <p>よく観察して制作することによって、細部が見えてくることを把握する。</p>	<p>制作上の注意点を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none">・新聞紙をまるめ、麻縄できつく結わいて、作品の芯の部分を作成する。・芯の上から、石塑粘土を祖付け、肉付けを行い、対象モデルの造形を完成させる。・この際、石塑粘土によって、できるだけ、量感を感じ取れるものに仕上げていく。・ニードルやカッター等を使用して、鋭利な部分については作成する。・石塑粘土を使用した造形に対し、ジェッソを用いて、下地塗りを行う。・対象モデルとなっている野菜や果物の特色をとらえて、着色を行う。・対象モデルの質感等も考慮して、アクリル絵具で着色する。・野菜や果物の生き生きとした感触が出るように、着色の仕上げを行う。・作品発表会を行い、自分の作品について制作時の振り返りを行うとともに、友人の作品を観ての感想を簡単なレポートとする。	○	○	<p>土にあった造形手法が用いられているか。</p> <p>アクリル絵具の性質をよく理解した上で、着色が行われているか。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>石質粘土とアクリル絵具の彩色によって、身近にある野菜や果物が生き生きとしたものとして、表現できているか。</p> <p>モデルとなっている野菜や果物らしさを感じられる作品となっているか。</p> <p>【主体的な取組】</p> <p>説明をよく聞き、それに沿った作品を提出できているか。</p> <p>モデルを作品として表現する際、様々な工夫を取り入れたものとなっているか。</p> <p>友人との作品鑑賞において、積極的に参加し、自己作品への振り返りがされているか。</p>	○	○	○	24		
	<p>E 美術の必要性と各時代の代表作品（作家の生き方を含む）</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>時代時代の文明があり文化があつて、その上に、美術表現が成立していることを理解する。</p> <p>宗教や人々の生活が、どのように美術と関連を持っていたのかについて、理解を深める。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>時代を代表する作家及びその作品を通じて、その作品にこめた作者の想いを感じ取る。</p> <p>文明や文化といったものが人々の生活に深く影響を与えているように、芸術と人々の生活はどのように絡み合ったのかを理解する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>過去の芸術作品に対し、主体的に興味をもって鑑賞する。</p> <p>作家の作品が、どのような経緯をもって作成されていたのか、積極的に鑑賞し、理解を深める。</p>	<p>・教科書記載のレオナルド・ダ・ヴィンチ、クロード・モネ、葛飾北斎等の作品を説明及び鑑賞する。</p> <p>・それら作品が制作された時代や作家の背景、人生を説明することで、作品をより深く鑑賞してみる。</p> <p>・絵画や彫刻の本質の意味について、グループごとにディスカッションしてもらい、その理解を深めていく。</p> <p>・後半では、建築家ル・コルビュジェの生涯やその作品を紹介し、彼の建築に対する思想や設計上の工夫を説明し、生活空間である建築物の意味を問う。</p>			○	<p>【知識・技能】</p> <p>芸術作家は、時代やその環境の中から生まれてきていることを、理解できているか。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>どのような時代背景の中から、作家が生まれ、代表作品を制作するに至っているか、深い理解が生まれたか。</p> <p>【主体的な取組】</p> <p>主体的に、時代を代表する作品が、造形的創造の美しさを感じ取り、鑑賞活動に取り組んでいるか。</p>	○	○	○	6	
3 学 期	<p>F 対比しあうものの撮影とイメージ絵画</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>共鳴しあうもの影響しあうものというテーマに沿って、光や構図を練る。</p> <p>タブレット端末のという用具の特性を生かして制作する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>決められたテーマから、自己表現がされているか。</p> <p>身近なものを観察することで、感じたこと考えたことが、表現できたか。</p> <p>映像がイメージとして、絵画に転換できたか。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>映像という異なる表現方法において、創造活動にも様々な方法があることを認識させる。</p>	<p>・写真という映像メディアについて、その特性を説明する。</p> <p>・対比するものを身の回りから探すように促す。</p> <p>・撮影は、できるだけ多くの題材をひろって、行うように指導する。</p> <p>・タブレット端末を使用して、身近なものの撮影を行う。</p> <p>・対比できるものを何組か選び、その中から、どれを選ぶか推敲する。</p> <p>・対比できた写真を、さらに、そのイメージを大切に、絵画へと発展させる。</p> <p>・アクリル絵具を使用して、画用紙（ケント紙）に描画してみる。</p>	○	○	○	<p>【知識・技能】</p> <p>異なる芸術表現である映像について、用具の特性を生かし、工夫を凝らした表現となっているか。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>被写体を見つめて感じ取ったことや考えたことをもとにして映像メディアに訴えた自己表現となっているか。</p> <p>【主体的な取組】</p> <p>主体的に撮影のテーマを取り込み、積極的に写真表現という創造活動に取り組もうとしたか。</p> <p>写真のイメージ化について、創造活動として、すすんで自己表現へと発展を試みていたか。</p>	○	○	○	14	
											合計